

認知症を知る

～薬とのつきあい方～

国立研究開発法人

国立長寿医療研究センター

National Center for Geriatrics and Gerontology



医薬品(くすり)ってなに？

医薬品(くすり)とは

病気の診断、治療又は予防に使用され、身体に影響を及ぼすことが目的のもの。
効果を発揮するため、品質を保つために必要な成分が、必要な量だけ入っている。
決められた方法で保管してあれば、使用期限内は一定の質と量が保たれる。

医薬品(くすり)	健康食品
製品として品質が一定	同じ製品でも 品質が一定とは限らない
病気の人	健康な人
医師・薬剤師の管理下	選択・利用は自由

くすりににはそれぞれ使う目的がある

飲み続けない くすり

病気の原因を取り除いて治す
(抗菌薬)



病気の症状を抑える薬
(鎮痛薬)

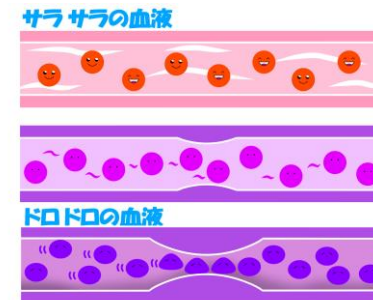


飲み続ける くすり

病気をコントロールする薬
(降圧薬)

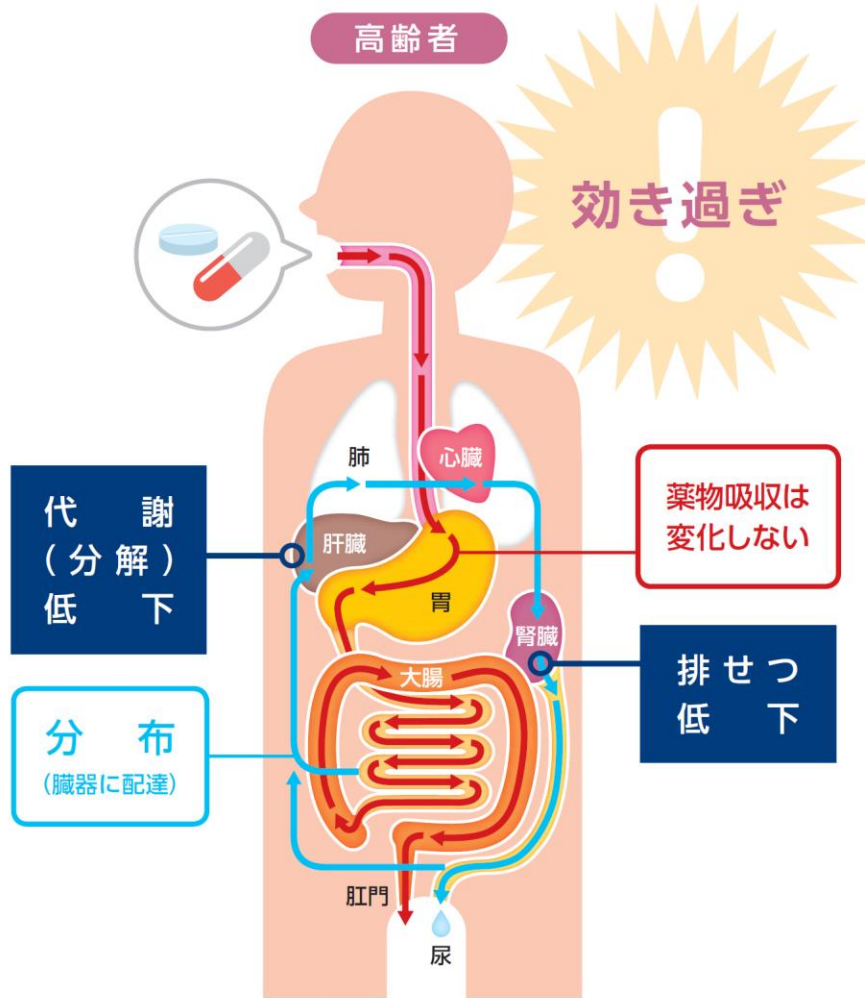


病気を予防する薬
(脂質異常症治療薬、抗凝固薬)



飲み忘れ、やめることで損をするかもしれない。
加齢による体調の変化によって中止することもある。

高齢者の薬物の体の変化と薬の関係



高齢者の副作用が多くなる理由は、薬の種類が多いことだけではなく、薬が体に蓄積しやすくなることも原因。

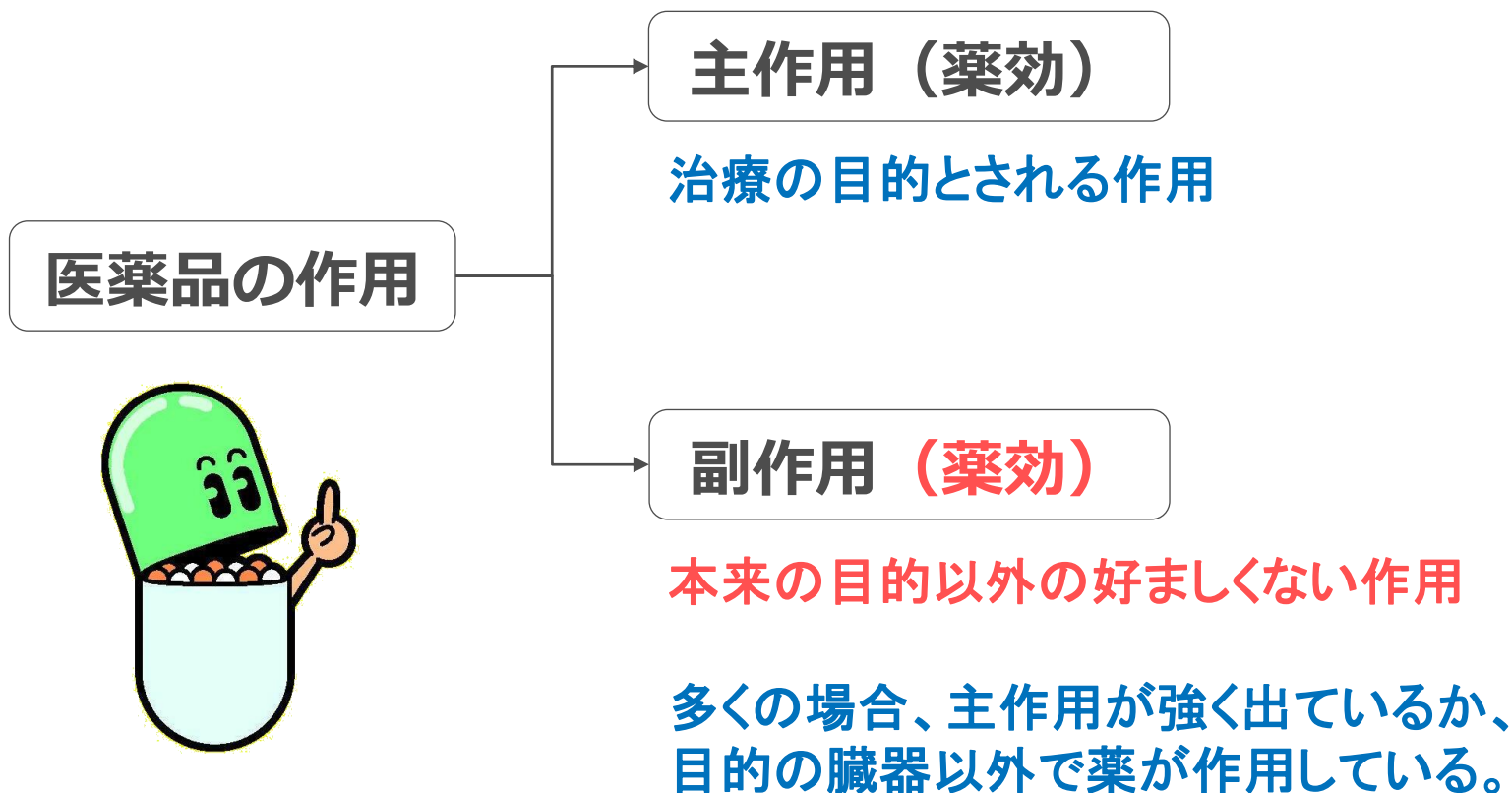
吸収: 体に取り込まれること

分布: 薬が全身に運ばれること

代謝: 主に肝臓で分解されること

排泄: 薬が体外に排泄される過程

(便中と尿中排泄がある)



副作用がない薬は、ほとんどありません。
正しく理解し、正しく使用することが大切です。

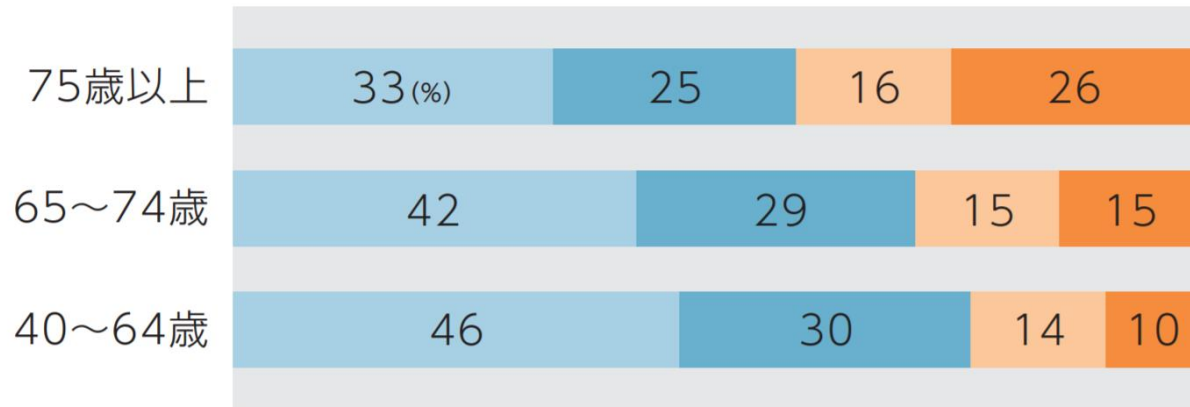
高齢者では薬の数が増えてきます

高齢になると、複数の持病を持つ人が増えてきます。そして、病気の数だけ処方される薬も多くなります。70歳以上の高齢者では6つ以上の薬を使っていることも珍しくありません。

年齢層別の薬の数

一人の患者さんが1か月に1つの薬局で受け取る薬の数

1~2個 3~4個 5~6個 7個以上



厚生労働省「2014年社会医療診療行為別調査」

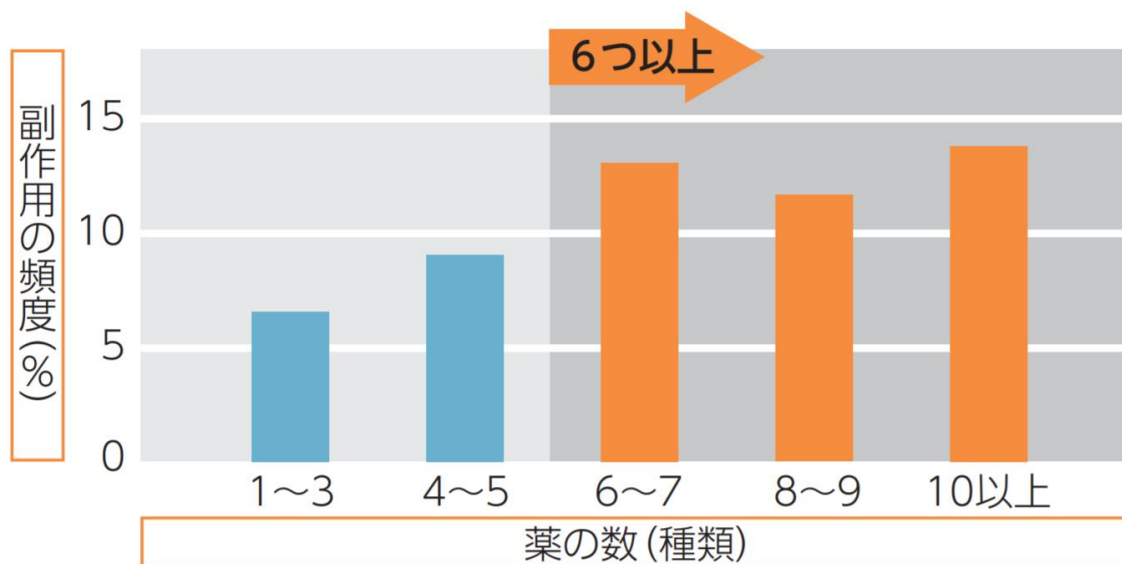
60歳を超えると
7つ以上の薬を
受け取る割合が増え、
75歳以上では
約4人に1人となる

薬が増えると副作用が起こりやすくなります

高齢者では、処方される薬が6つ以上になると、副作用を起こす人が増えることが分かっています。ですから、医師は薬剤数を減らせないか見直しをしたり、増やさずに済む方法を考えたりしています。



薬の数と副作用の頻度との関係



Kojima T, Akishita M, et al. Geriatr Gerontol Int. 2012

処方工夫と服薬支援の主な例

服用薬剤数を減らす	<ul style="list-style-type: none">● 力価の弱い薬剤を複数使用している場合は、力価の強い薬剤にまとめる● 配合剤の使用● 対症療法的に使用する薬剤は極力頓用で使用する● 特に慎重な投与を要する薬物のリストの活用
剤形の選択	<ul style="list-style-type: none">● 患者の日常生活動作(ADL)の低下に適した剤形を選択する
用法の単純化	<ul style="list-style-type: none">● 作用時間の短い薬剤よりも長時間作用型の薬剤で服用回数を減らす● 不均等投与を極力避ける● 食前・食後・食間などの服用方法をできるだけまとめる
調剤の工夫	<ul style="list-style-type: none">● 一包化● 服薬セットケースや服薬カレンダーなどの使用● 剤形選択の活用(貼付剤など)● 患者に適した調剤方法(分包紙にマークをつける、日付をつけるなど)● 嚥下障害患者に対する剤形変更や服用方法 (簡易懸濁法、服薬補助ゼリー等)の提案
管理方法の工夫	<ul style="list-style-type: none">● 本人管理が難しい場合は家族などの管理しやすい時間に服薬をあわせる
処方・調剤の一元管理	<ul style="list-style-type: none">● 処方・調剤の一元管理を目指す(お薬手帳等の活用を含む)

認知機能の低下による飲み忘れや飲み間違いは、
調剤方法や管理方法を工夫することで予防できる。

調剤方法の工夫

一包化調剤



服用時間が同じ薬を
1回分ごとにまとめて包装

色付き薬袋



服用時間ごとに袋の色を分ける

病院や薬局などの医療機関へかかるときは、
お薬手帳を持参して下さい。

お薬手帳による情報管理

お薬手帳は、現在服用している薬や過去服用していた薬の名前、副作用・アレルギー歴などを記録し、薬に関する情報を管理するための手帳です。いざという時のため、外出するときにはいつも持参しましょう。



- ・薬の飲み合わせ
 - ・似たような薬が処方されていないか
 - ・副作用が出ていないか
- などを確認することができます。